

平成 26 年度土木学会ジョイントセミナー報告(海岸工学委員会)JSCE-PICE 合同セミナー「台風ハイヤンによる災害調査と分析, 両国における今後の海岸防災における課題」

2013 年台風 30 号(ハイヤン)の来襲に伴うフィリピンにおける高潮・高波災害を受け、土木学会はフィリピン土木学会(PICE: Philippine Institute of Civil Engineers)との合同調査を実施し、被害の全容把握に必要な多くの貴重な情報を得ることができた。その結果として、最も被害が大きかったレイテ島、サマール島では、浸水高や氾濫域に局地的な分布が見られ、一部の地域では吸い上げや吹き寄せによる高潮に加え、高波による氾濫、さらに、高潮と高波が重なったことによる被害の増大があったことなどが分かってきた。さらに、特に被害の大きかった東サマールやレイテは台風の常襲地帯であるにも関わらず、地形的な特性から過去長期間にわたって本災害ほどの浸水被害を受けてこなかったことから、沿岸部の住民の意識が低く、警報を認識していたにもかかわらず多くの住民が避難せず、被害を拡大させたことなども明らかになった。

本合同セミナーは平成 26 年 11 月 28 日にケソンにおいて実施した。セミナーでは JSCE および PICE から、それぞれ 7 名ずつ合計 14 名の講演者が登壇し、合同調査結果の詳細、また実験や数値解析に基づく被災メカニズムの検証、復興計画、また日本における高潮被災事例の紹介や防災対策、気候変動を踏まえた今後の予測とその適応策などに関する話題提供を行い、知識を共有するとともに両国の海岸防災に関する理解を深めた。合同セミナーには被災地における復旧・復興において中心的な役割を担った DPWH(Department of Public Works and Highways)の技術者を中心に 84 名が参加し、話題提供の後には今後の海岸防災にむけた課題やそのための共同研究の方向性について議論を深めた。



講演の様子

合同セミナーで共有した知見の一部は、2015 年末に発刊予定の Coastal Engineering Journal、Special Issue における論文掲載という形でも、成果として広く公開していく予定である。



Eric Cruz 教授による講演



セミナー講演者の集合写真

●合同セミナープログラムは[コチラ](#) (英語のみ)

【記 海岸工学委員会 田島芳満 (東京大学)】